

講座名（専門科目名）	内科学講座（腎臓内科学）	教 授	猪阪善隆
学生への指導方針	下記のサブグループに属していただき、グループリーダーが責任をもって指導します。		
学生に対する要望	医師以外の受け入れの実績は少ないのですが、ある程度の知識と熱意があれば可能です。事前に相談いただくとありがたいです。		
問 合 せ 先	(Tel) 06-6879-3857 (Email) takaba@kid.med.osaka-u.ac.jp	担 当 者	高島義嗣（医局長）
その他出願にあたっての注意事項等	特にありません。		

（以下教室紹介）

腎臓内科学教室は、昭和 30 年に故阿部裕先生（本学名誉教授）が創設された第一内科腎臓研究室に端を発します。その後、平成 17 年に老年・腎臓内科学講座（荻原俊男教授）に統合されたのち、平成 27 年 10 月、創設 60 年目の節目に単独の講座として開講いたしました。医局は平成 28 年 2 月に現在の臨床研究棟 2 階に移転し、現在に至っています。

当科は、国際的にも日本国内においても腎臓学研究と診療のリーダーを自負しています。基礎研究面では、腎臓病学に生化学、細胞生物学、分子生物学、幹細胞生物学、ゲノム・プロテオーム情報学などを先駆的に取り込み、常に各分野をリードしてきました。臨床研究面では、古くは腎臓疾患患者の栄養学確立、腎生検による組織診断学確立などをパイオニアとして行い、現在は腎機能軽度障害患者の総合マネジメント戦略をエビデンスに基づいて確立することに努めています。以下当科で行っている研究の一端を紹介します。詳細は大阪大学腎臓内科 HP をご覧ください (<http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/kid/kid/index.html>)。

オートファジーは細胞内のタンパク質や器官を分解するための仕組みの一つで自食作用とも呼ばれます。腎尿細管はオートファジーが活発に起こる場所の一つで、私たちは遺伝子改変マウスを用いて、定常状態や種々のストレス下で、尿細管オートファジーが重要な役割を果たすことを証明してきました。最近では加齢や脂質代謝異常、糖尿病状態において、亢進するべきオートファジーが停滞してしまうことによって、腎病変の悪化を加速させていることもわかってきました。薬剤により、オートファジーの流れをスムーズにすることで腎疾患の治療が可能になるのではないかと考え、その臨床応用へ向けて日々研究を続けています。

慢性腎臓病（CKD）-MBD（Chronic Kidney Disease-Mineral and Bone Disorder）グループは、その概念が世界で確立される遙か以前より、カルシウム・リン代謝、血管石灰化をテーマに研究を行ってきました。本グループでは臨床研究で見つかった事象のメカニズムを基礎研究でつまびらかにするなど、基礎研究グループと臨床研究グループの緊密な連携に努めています。骨ミネラル代謝異常は腎疾患および腎不全関連疾患の病態形成・進行に深く関わっています。このため、本グループでは CKD-MBD をベースに、腎疾患および腎不全関連疾患の病態解明を試みるとともに、その新規診断/治療法の開発を行っています。臨床研究グループは腎疾患臓器連関制御学寄附講座（濱野高行准教授）を中心に、CKD 全ステージを網羅した臨床研究を行っています。

疫学グループは、本学キャンパスライフ健康支援センターを本拠として、様々な施設と共同で、改善可能な生活習慣や薬物治療が CKD の発症・進行にどのような影響を及ぼしているかを、疫学的手法を用いて明らかにしています。数万~数十万人規模の職域・一般住民健診受診者、腎炎やネフローゼ症候群などの CKD 患者コホートのデータを対象にしております。また大規模な疫学研究を容易に行うために、電子カルテから抽出した医療系ビッグデータを利用して、簡単にコホート研究用データシートを作成できるオンラインアプリを開発しています。さらに教育活動 「Clinical Journal Club」 や「若手腎臓内科医のための臨床研究セミナー」等を通じて、疫学研究の教育活動も積極的に行っています。

上記のほか、先端移植基盤学講座（貝森准教授）では腎移植を中心に臨床・基礎研究を行っています。熱意ある学生さんの応募をお待ちしております。